

阿南市立羽ノ浦中学校

学校評価結果

令和5年度調査

1 回答者

生徒388名 保護者238名 教職員30名
(令和5年12月8日(金)～12月23日(土)に実施)

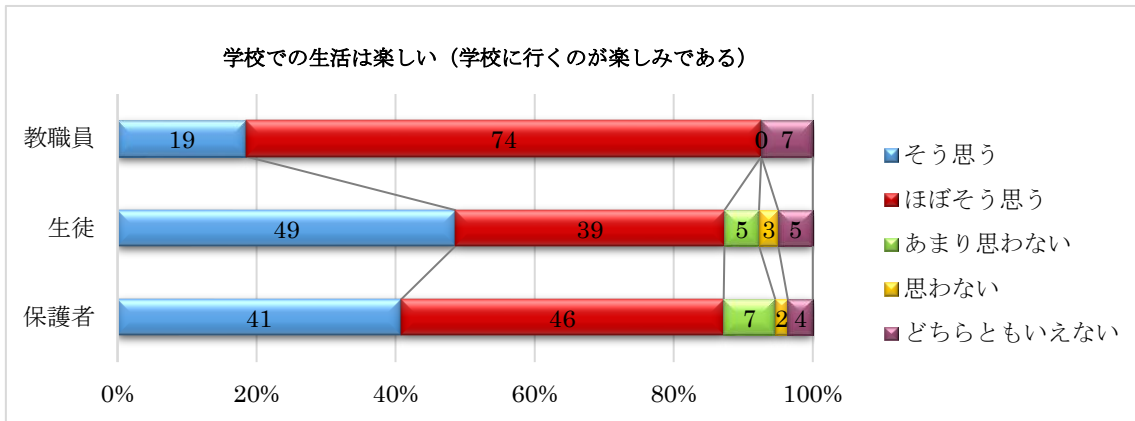
2 回答方法

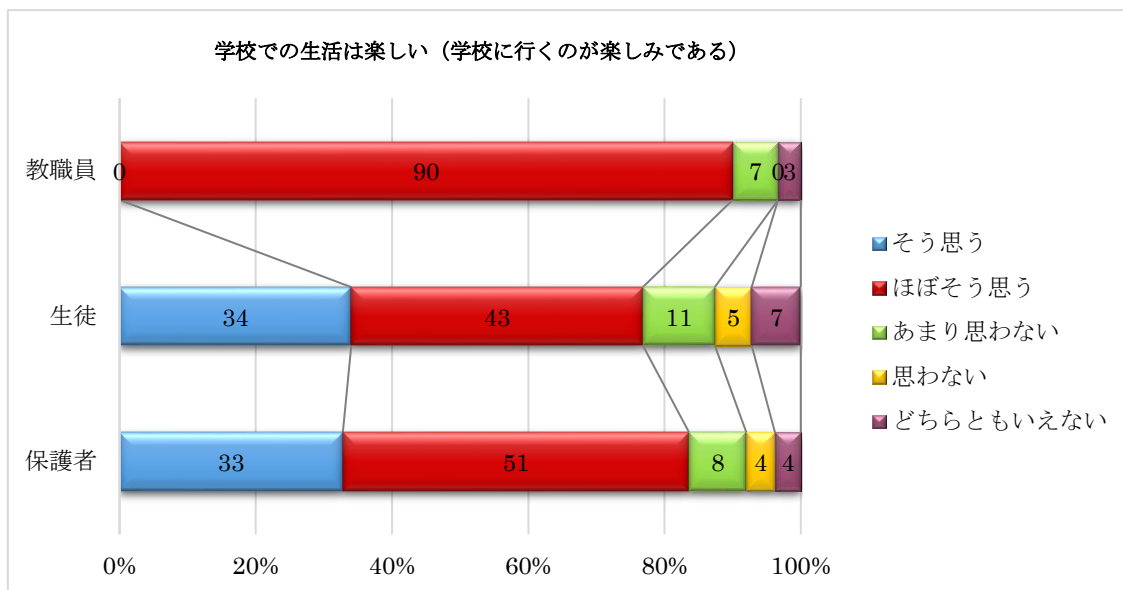
各質問事項に対して、「そう思う」「ほぼそう思う」「あまり思わない」「思わない」「どちらともいえない」の5段階の回答を依頼し、「そう思う」「ほぼそう思う」を肯定的意見、「あまり思わない」「思わない」を否定的意見として調査結果を分析しました。

3 結果の活用

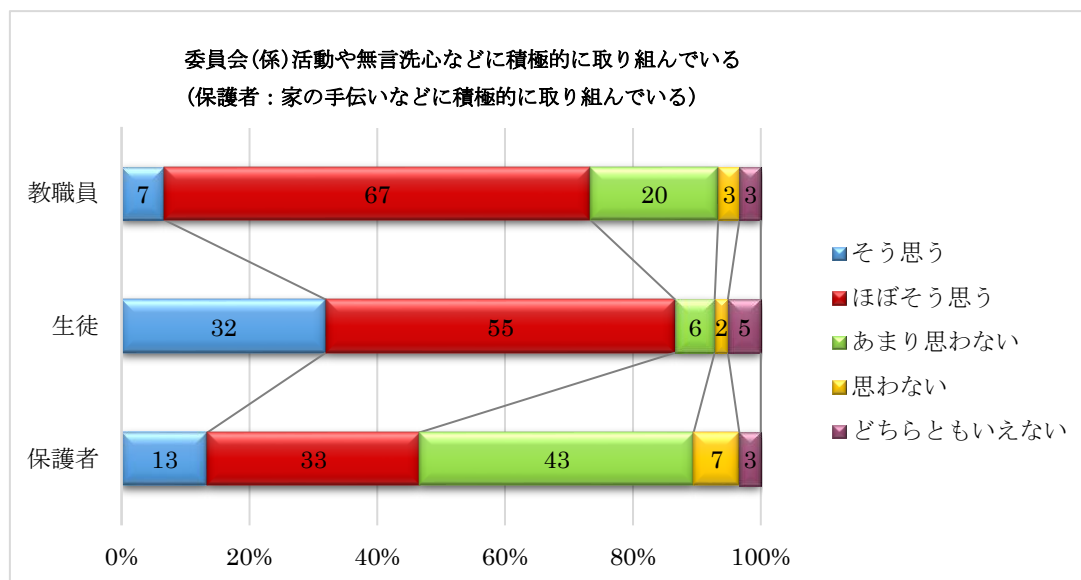
調査結果は1月にとりまとめ、全ての教職員に配付し課題と改善点を明らかにした上で、令和6年度の学校運営や教育方針、さらには重点目標に反映させていきます。また、保護者や運営協議会委員にも調査結果を提示してご助言をいただき、改善すべき点は積極的に改善するよう努めていきます。

グラフの見方(例) グラフ内の数字は全体に占める割合(%)を示す

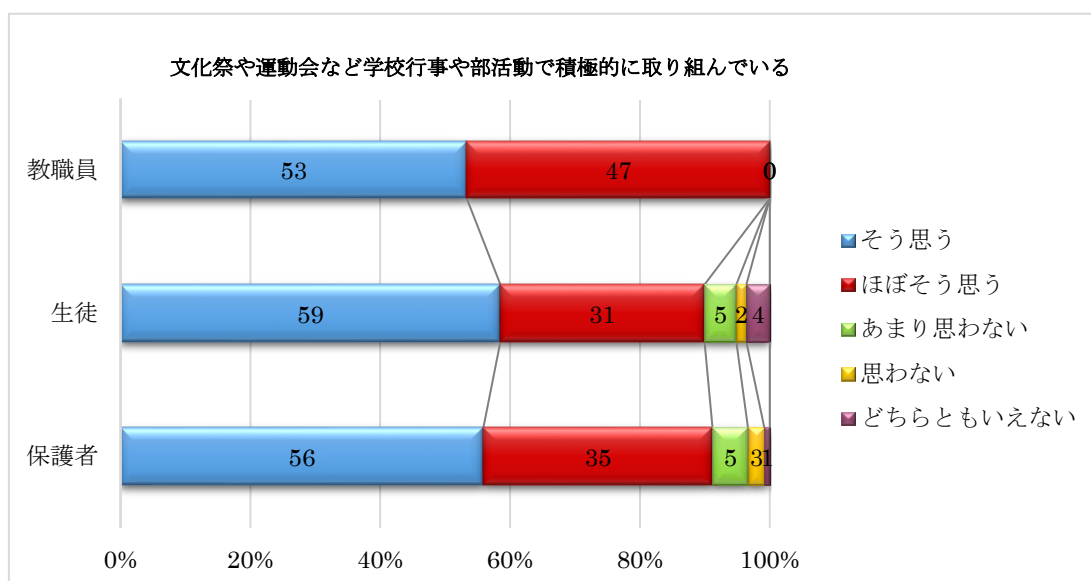




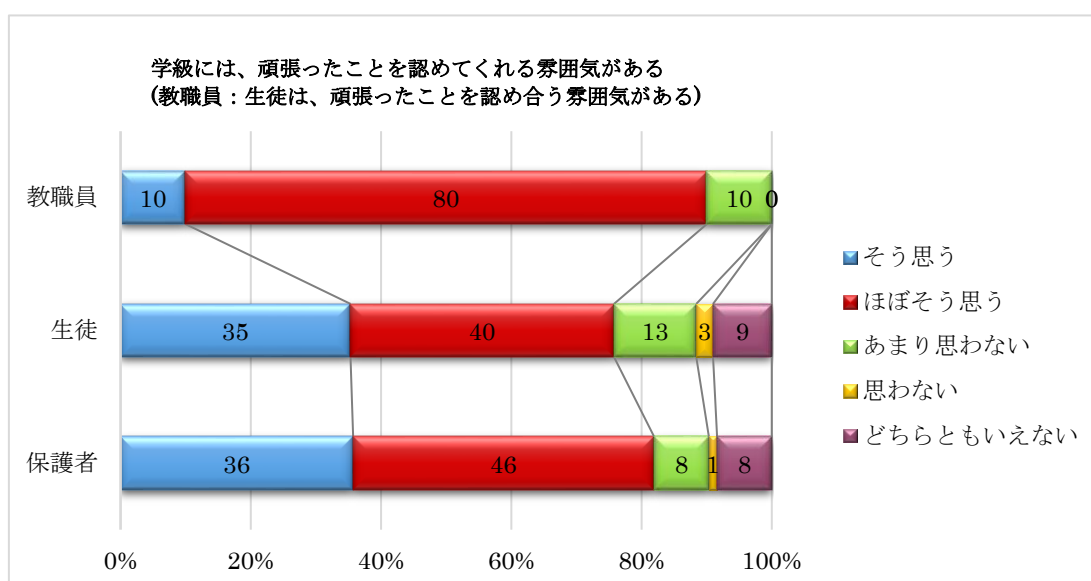
生徒は77%、保護者は84%、教職員は90%が肯定的意見で回答しており、それぞれ令和4年度の結果に比べて微減となりました。今後は、すべての生徒が学校生活が楽しいと感じられるよう生徒一人一人への丁寧な指導・支援の充実と徹底にさらに努め、生徒の健やかな成長がはかれるよう学校づくりを進めてまいります。



生徒は87%、教職員は74%がそれぞれ肯定的意見となりました。しかし、保護者の肯定意見は46%と大きな差が見られます。この結果から、生徒は学校生活においては周囲と協力し生活を送りやすい環境づくりに努力している様子が伺えます。今後、学校としては、家庭での手伝いの大切さ、それを通じて得られる経験が貴重なものであることを伝える教育活動を進めてまいります。



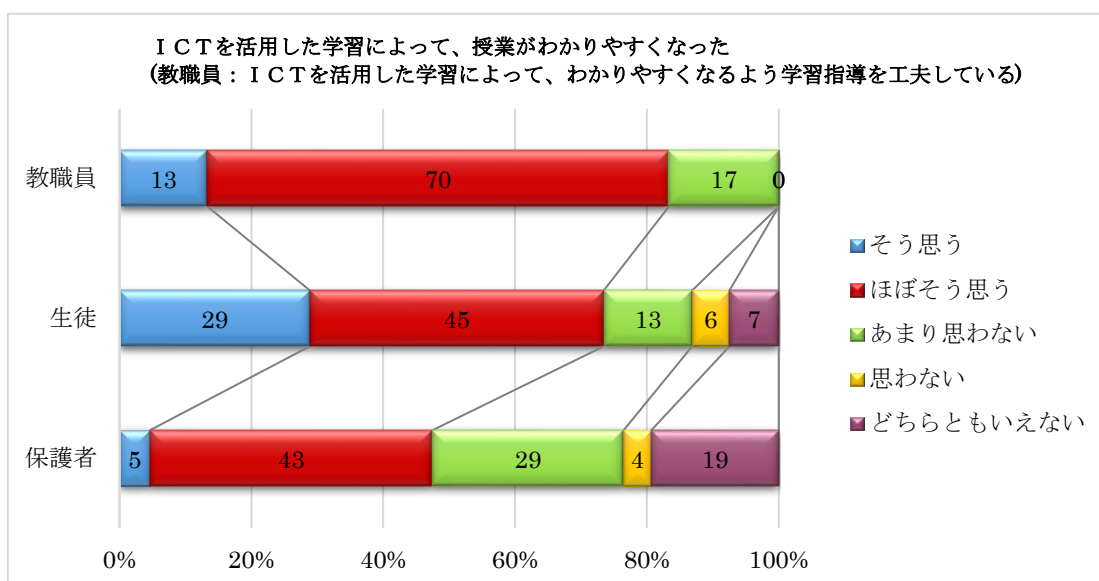
生徒、保護者、教職員の肯定的意見は9割を超えています。今年度はコロナ禍が明け、学校行事や部活動等において、生徒が達成感を味わう活動の機会が増加した結果だと思えます。今後も生徒が、積極的に参加できる行事等を工夫しながら、教育活動を進めていきたいと考えております。



生徒は75%、保護者は82%がそれぞれ肯定的意見となりました。しかし教職員の肯定的意見は90%と結果に少し開きが見られます。

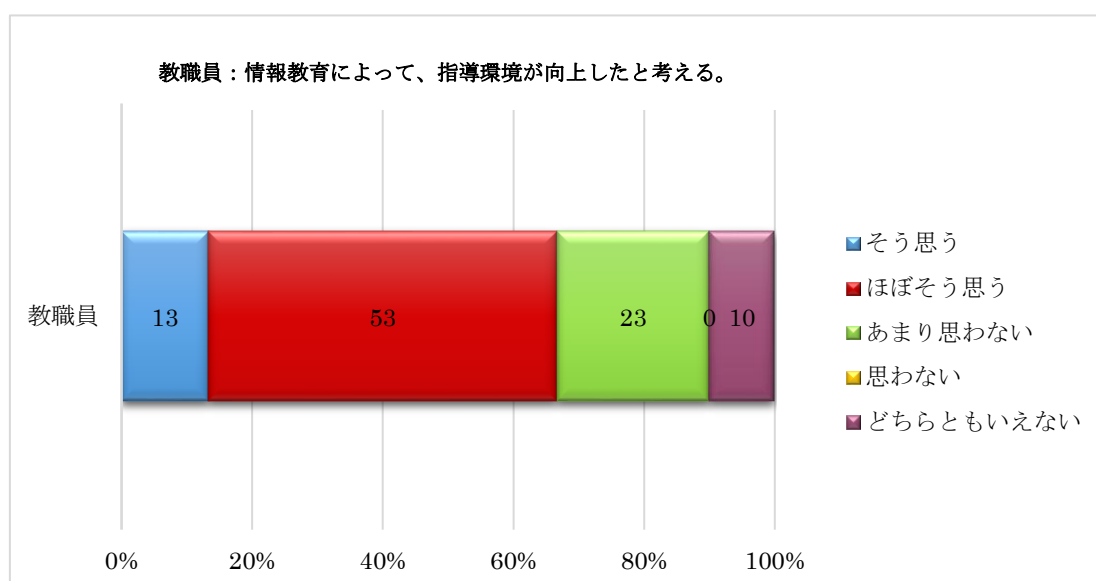
学校・学級という集団の中で円滑に生活を送るために、互いの人権を尊重し、よい点や努力している点を認め合うことは極めて大切な事です。

今後は、学級の時間や学習活動の中で人間関係づくりのスキルアップを目的とした活動を計画的に進めていきたいと思えます。

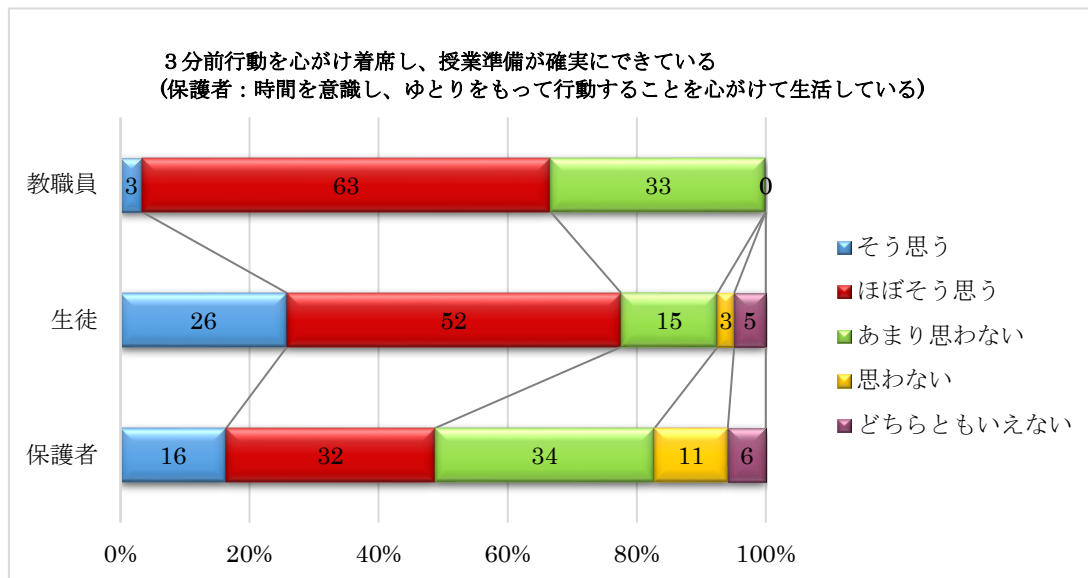


生徒は74%、教職員は83%がそれぞれ肯定的意見となりました。しかし、保護者の肯定的意見は48%と大きな差が見られます。

学校としては、これらの点の改善するためのアプローチや指導が必要です。特に生徒の日常生活の中でのタイムマネジメント能力の育成に取り組んでいきます。

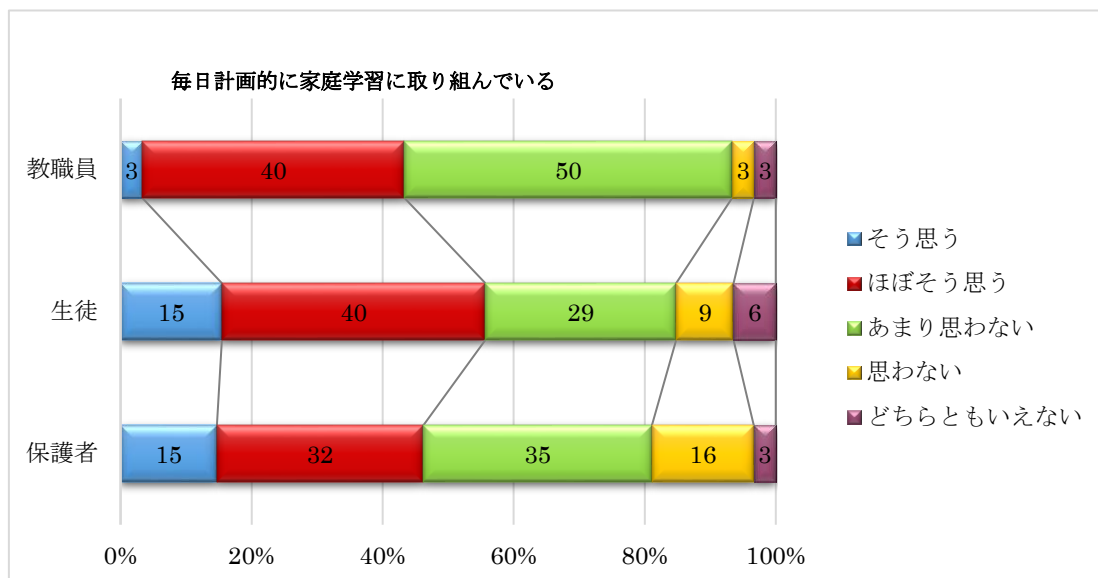


教職員の肯定的意見は66%という結果です。GIGAスクール構想により、ICT機器を活用した教育活動が定着しつつあります。しかし、このアンケート結果から、ICT機器を活用しての授業づくりに、教職員が試行錯誤している様子もうかがえます。今後は、授業づくりのために研修の充実と、教職員だけでなく生徒も含め、ICT機器を活用しやすい環境整備等も進めていきたいと思えます。



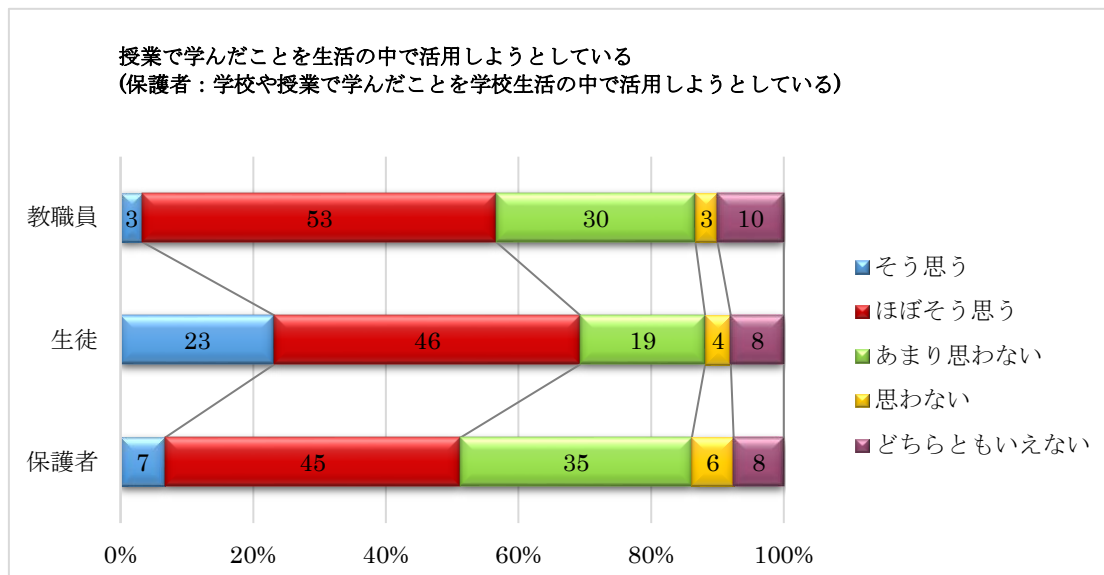
生徒は78%が肯定的意見ですが、教職員が66%、保護者が48%と結果に大きな差があります。

生徒自身はゆとりを持って行動できていると思っているようですが、自分がやるべきことを把握し、1日の予定等を見通しをたてて計画的に生活できる、マネジメント能力の育成に取り組んでいきます。

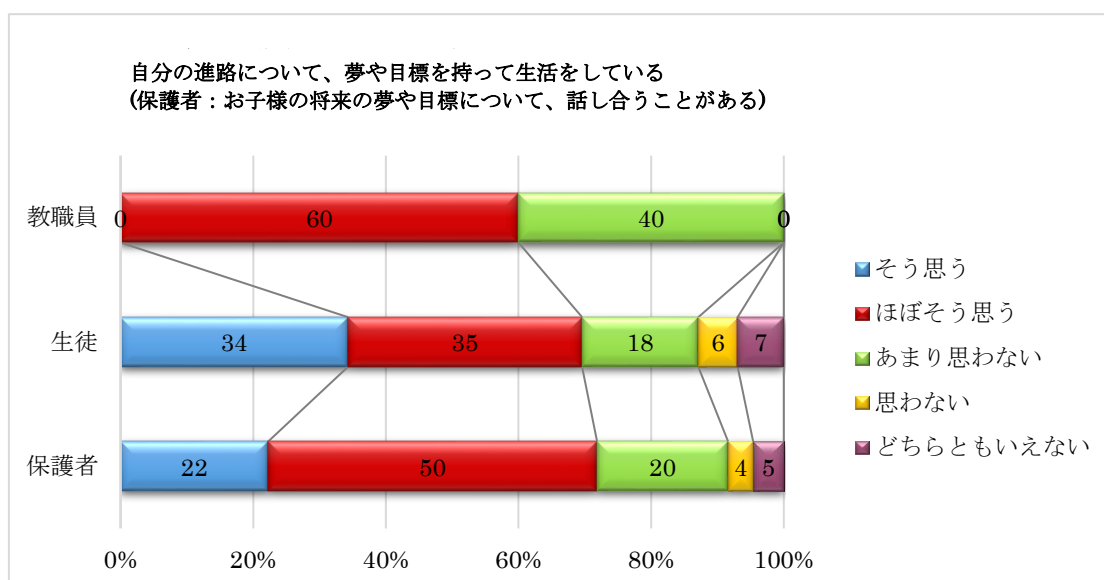


肯定的意見は、生徒は55%、保護者は47%、教職員の肯定的意見は43%という結果になりました。他の項目に比べ肯定的意見が低く、家庭学習の習慣が定着しているとは言い難い結果です。学校としては、なぜ学習するのか、自分の目標を持ち、

予習・復習から始める事、時間を決める事等、具体的な家庭学習の方法を指導しながら家庭学習の習慣の定着を図ります。



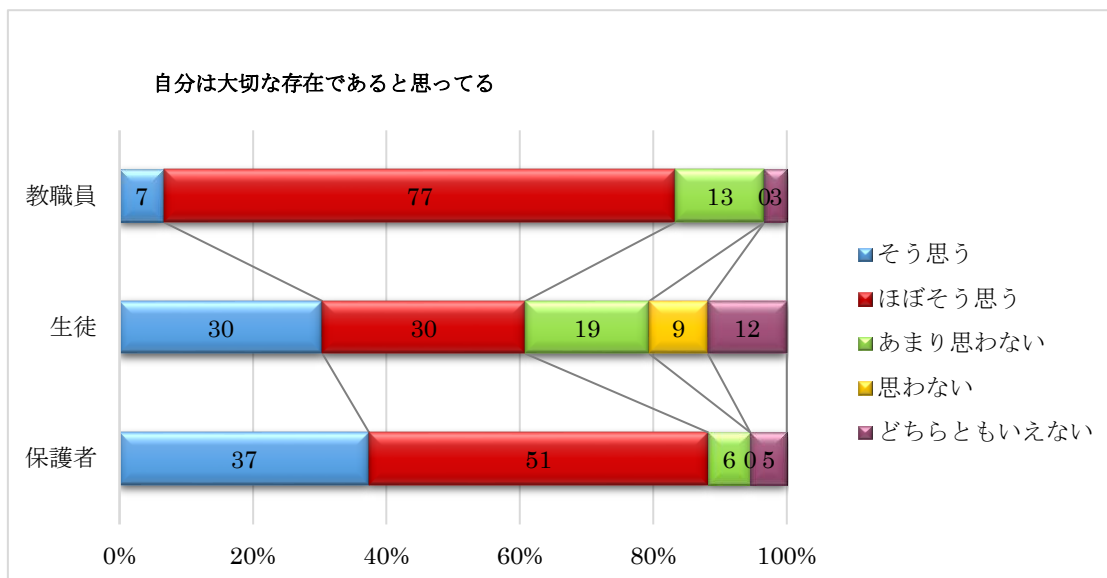
生徒の肯定的意見は70%近く、保護者、教職員は約50%強と肯定的意見の結果に多少の開きが見られます。この結果から、学校行事や授業等の教育活動が、日常生活と結びつくよう、身近な題材を取り上げる等の工夫をし、課題を見つけ自ら学ぶ力の育成に努めていきます。また、学校行事の意義や重要性を生徒と教職員が共に理解し、行事を通して協力し合うことの大切さや目標に向かって努力することのすばらしさ、成しとげたときの達成感等をより多く経験させたいと思います。



生徒・保護者ともに約70%が肯定的意見ですが、教職員の肯定的意見は60%の結果となりました。学校のあらゆる教育活動を通して、自己の生き方を考えるとともに生徒が自己

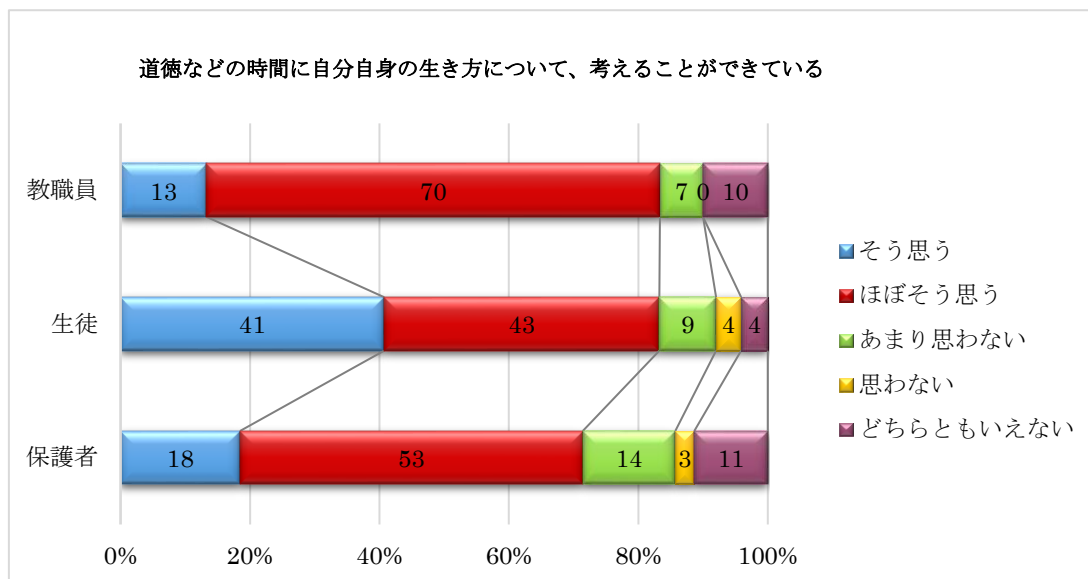
の夢や目標が語れるような仲間づくりや集団の育成が必要と考えます。

今後、キャリア教育等の更なる充実を図るとともに全ての教育活動における実践的・体験的な学習を通して、自分らしく生きるために「学び続けたい」「働き続けたい」と強く願い、それを実現する意欲を持った生徒の育成をめざします。

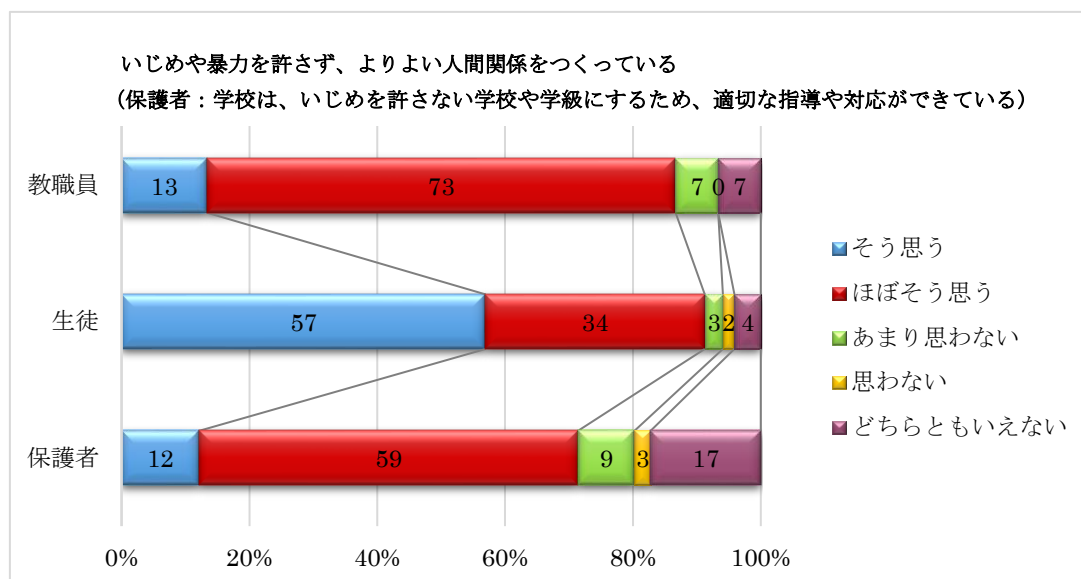


肯定的意見が保護者、教職員ともに80%を超えていますが、生徒の肯定的意見は60%と結果に開きが見られます。

この結果から、約3割の生徒が、自己肯定感や自己有用感が高まっていないと思われます。今後は、誰もが認められる仲間づくりをさらに推進していく必要があると考えます。生徒が、ありのままの自分を「大切な存在だ」「かけがえのない存在だ」と思えるよう、全ての教育活動に人権教育を位置づけ継続的に支援・指導を進めるよう努めてまいります。

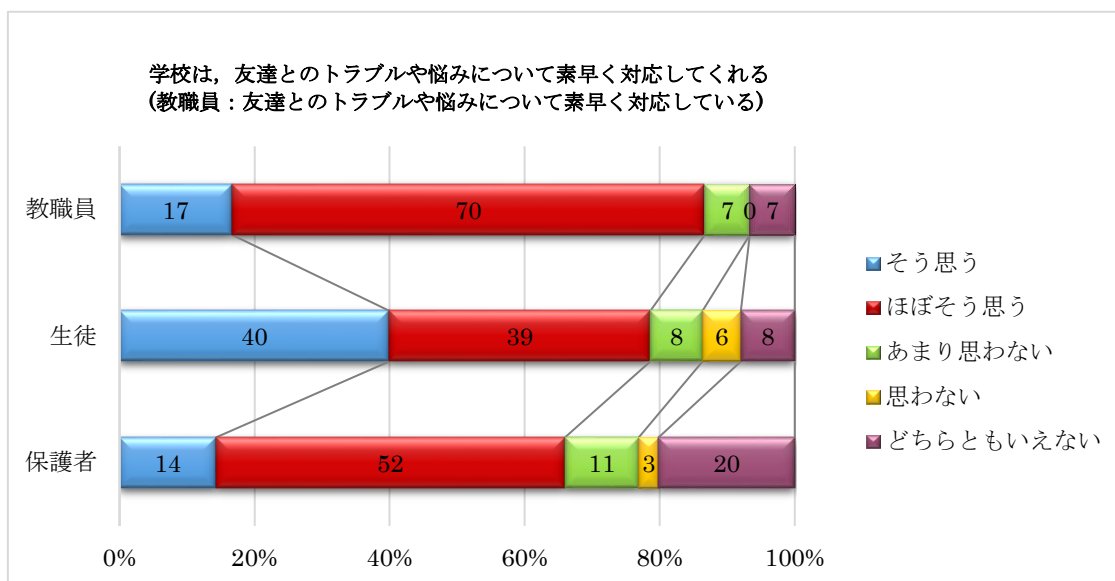


保護者は71%、教職員は83%、生徒は84%が肯定的な意見となりました。生徒は、道徳、人権学習、参加体験的学習、学校行事等を通して、望ましい人間関係を形成し、よりよい学校生活を築くための力が育っていきます。これからも様々な学習活動を通して、仲間と互いに支え合う大切さに気づき、協調性や責任感、自他の人権を尊重する心、豊かな感性を育む教育活動を実践していきます。



生徒の肯定的意見は91%、教職員は86%、保護者は71%と結果に多少の開きが見られます。いじめを許さない学校や学級づくりには、「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を、学校教育あらゆる場面で、生徒一人一人に問いかけ、その意識を行動につなげることが重要です。

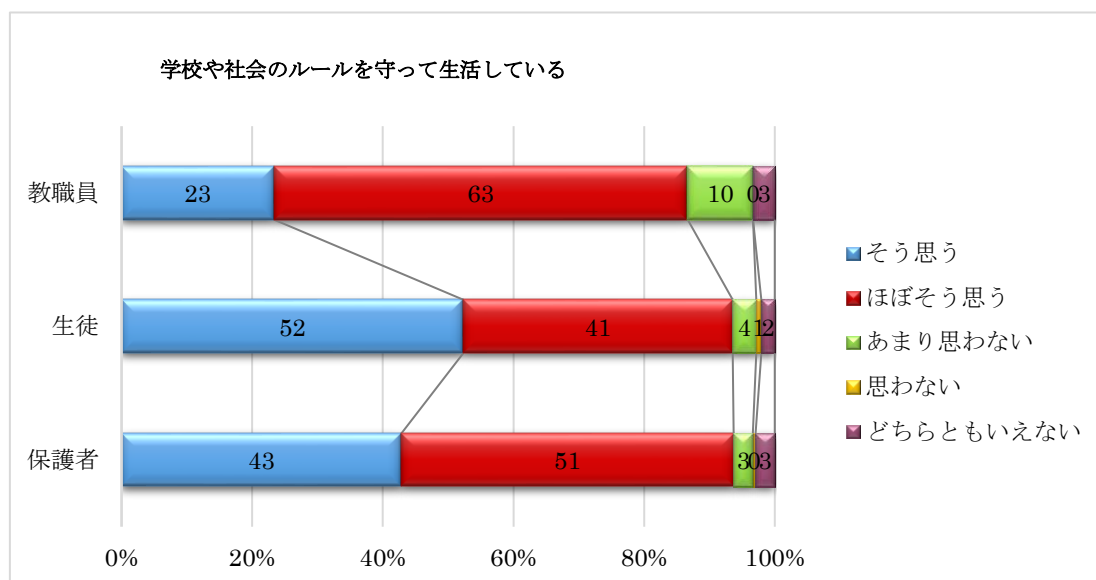
これからも、教職員一人一人がいじめ問題の重大性を認識し、いじめの未然防止、早期発見、適切かつ迅速に対処していくことが求められています。学校教育はもとより、家庭・地域社会や関係諸機関との連携を図り、より多くの大人が子どもの悩みや相談を受け止めることができるよう積極的に取組を進めていきます。



生徒の肯定的意見は79%、教職員は87%、保護者は66%と結果に多少の開きが見られます。

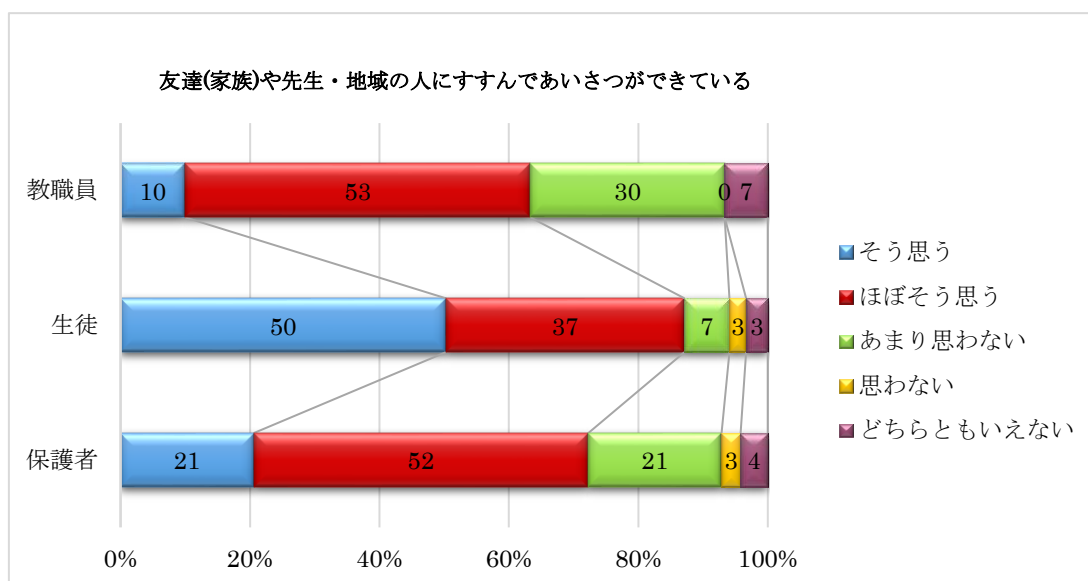
教職員は、生徒・保護者からの相談を受け、学年もしくは学校全体で素早く事実確認をし、トラブルや悩みの解消に向け努めてきました。

今後も生徒の心情に寄り添い全ての生徒に気を配り、学校全体で生徒支援や個別対応を進めていきます。また、更に保護者への丁寧な説明にも努めてまいります。

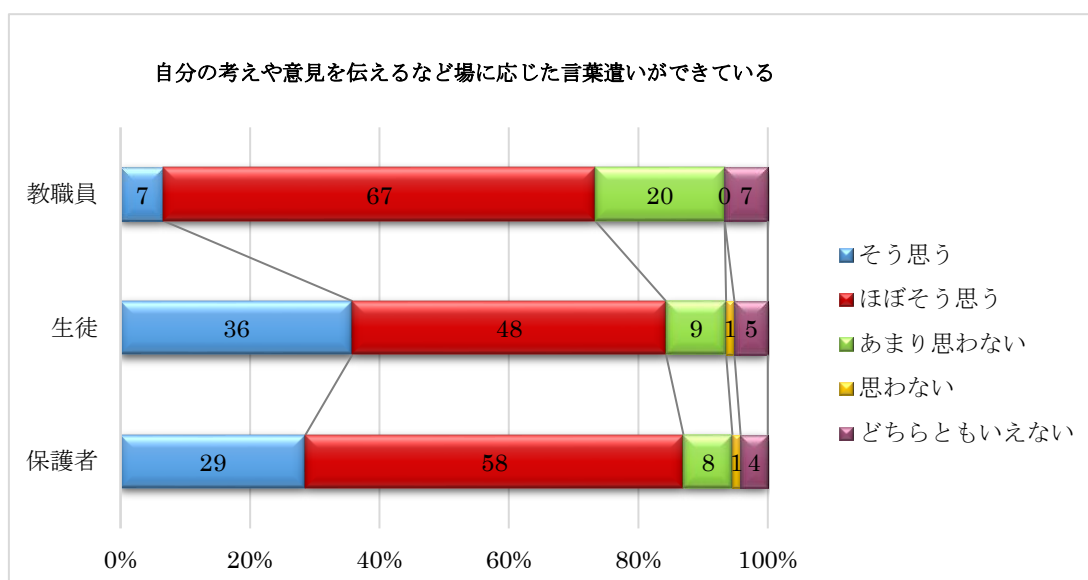


生徒が93%、保護者が94%、教職員が86%の高い割合で肯定的意見となりました。この結果から、多くの生徒が規範意識を高く持ち、落ち着いた学校生活を送ったり、学習や部活動に取り組めたりしています。今後は、放課後や休日の生活においても、羽中生の誇り

と自覚を常にもち、保護者のみなさまにもご協力を頂きながら、ルールを守り安心・安全な生活が送れるように指導していきます。

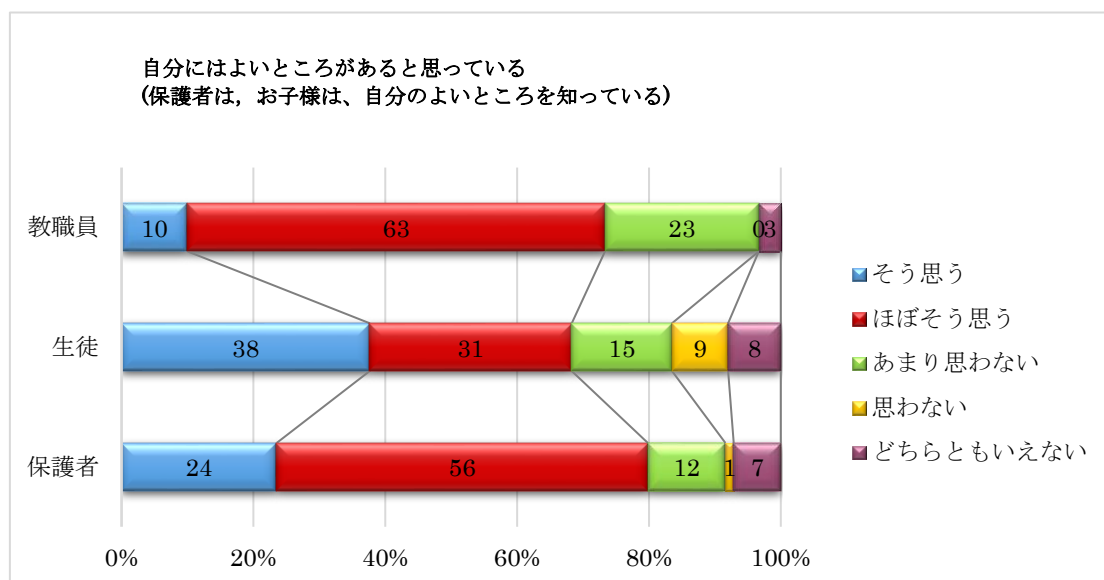


生徒の87%が肯定的意見という結果となりましたが、保護者は73%、教職員は63%とそれぞれ結果に多少の開きがあります。学校では、すすんであいさつができる生徒は多いですが、登下校や地域などにおいては、すすんであいさつできる生徒が少ないことが要因の一つと考えられます。今後は、時間や場所に関係なく、常にすすんであいさつができる生徒が増えるよう、あいさつの大切さを伝えるとともに、教職員も生徒の手本となるよう、指導していきます。



肯定的意見は、生徒が84%、保護者が87%、教職員が74%という結果となりました。場に応じた言葉遣いは、相手への敬意や自分の考えを正確に伝えるための基本となります。今後も学校生活や授業の中で自分の考えや意見を相手に適切に伝えられるコミュニケ

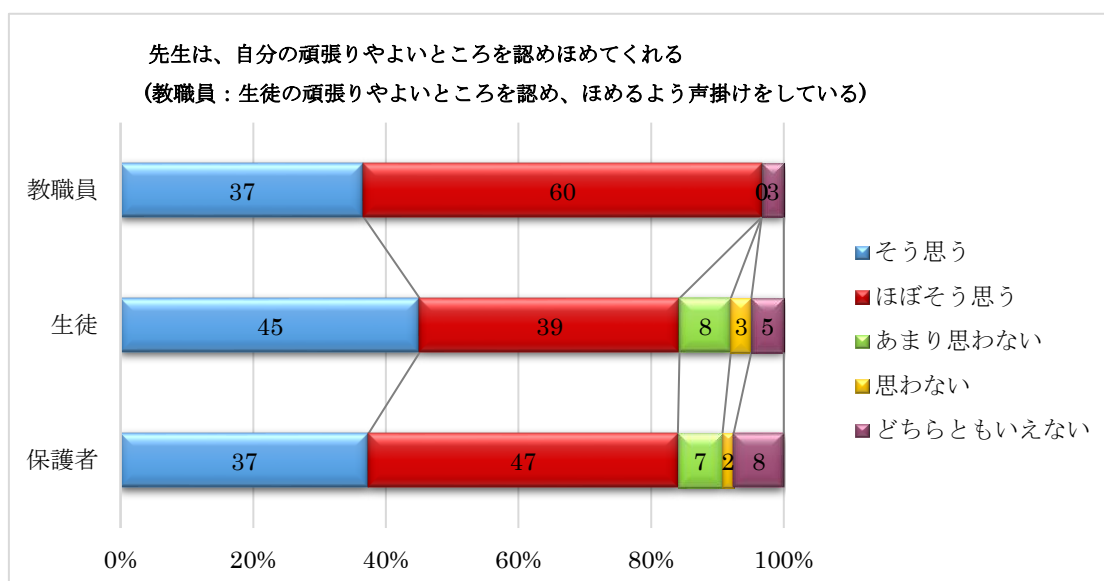
ーション能力が身につくように、教職員が授業の中で発表の機会を増やすなど、言語活動の充実に力点を置いた授業展開を進めるとともに場に応じた言葉遣いの大切さについて伝えていきます。



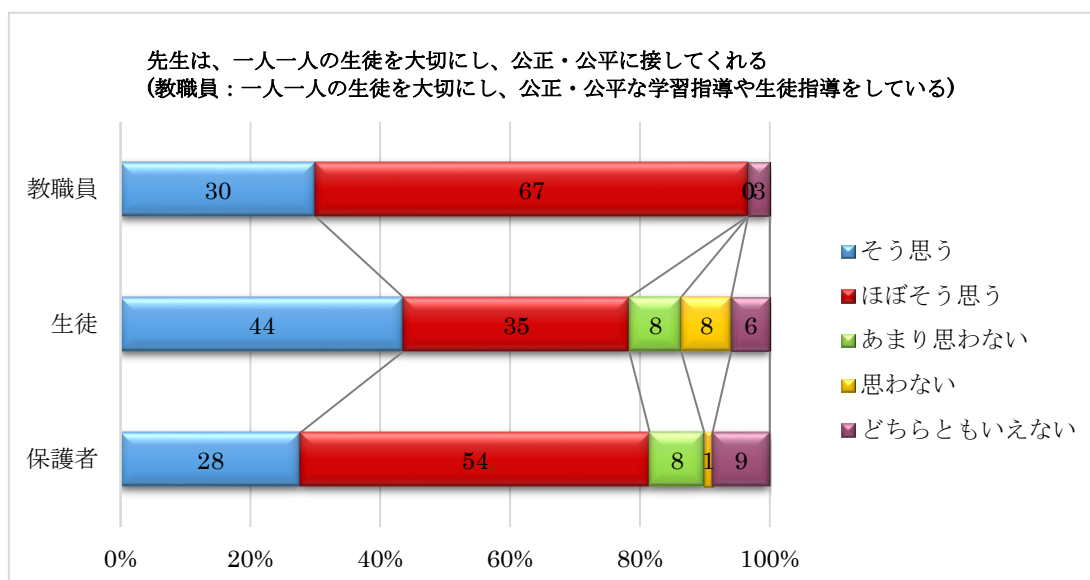
生徒の肯定的意見は、69%という結果となりました。この結果から、約3割の生徒は自分のよさを認識できていないという課題が見えてきました。

自分自身のよさを知っている生徒（自己肯定感の高い生徒）は、物事を前向きに捉え、うまくいかなくても努力を継続できたり、自分をかけがえのない存在として肯定しているため周りの人もかけがえのない存在として認識できたりします。また、周りに振り回されたり周りを意識しすぎたりせず主体的に行動できると考えます。

学校では普段の授業はもちろん、行事等を通して生徒が互いに認め合いながら自信を持って成長していけるよう支援してまいります。

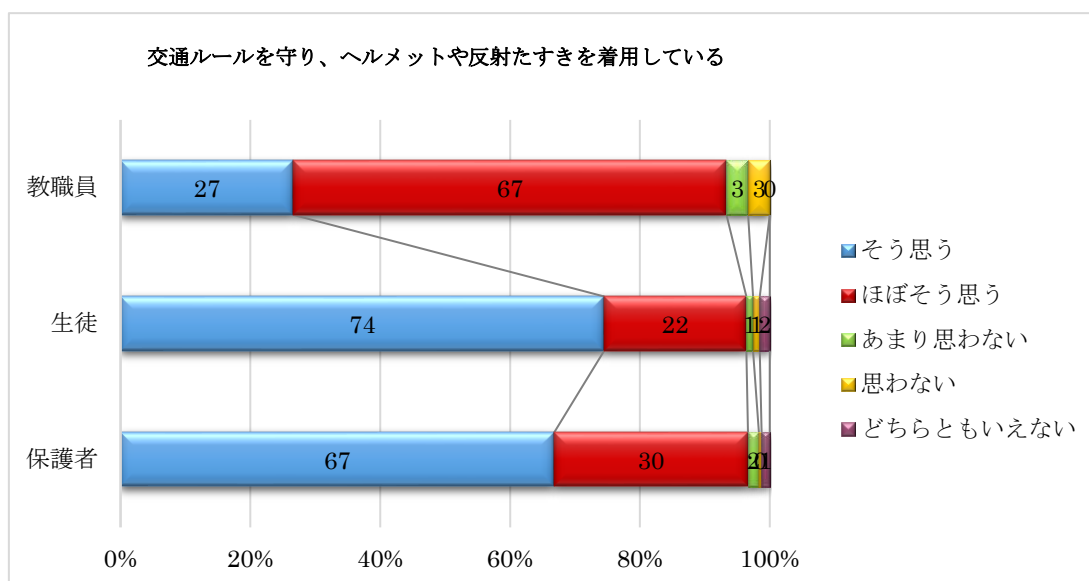


生徒、保護者ともに肯定的意見は84%という結果となりました。教職員の97%が肯定的意見であり、結果は高い割合を占めています。教職員は、生徒が自信を持てるようによいところを認め、頑張ろうと思えるよう声掛けをしていると思います。前質問項目にも密接に関係していますが、生徒の良いところを認め頑張ろうと思える声掛けを繰り返すことで、自分の良さを認めることができる生徒（自己肯定感の高い生徒）の育成につながると考えます。これからも生徒の頑張りや良さを認める教育実践をすすめてまいります。

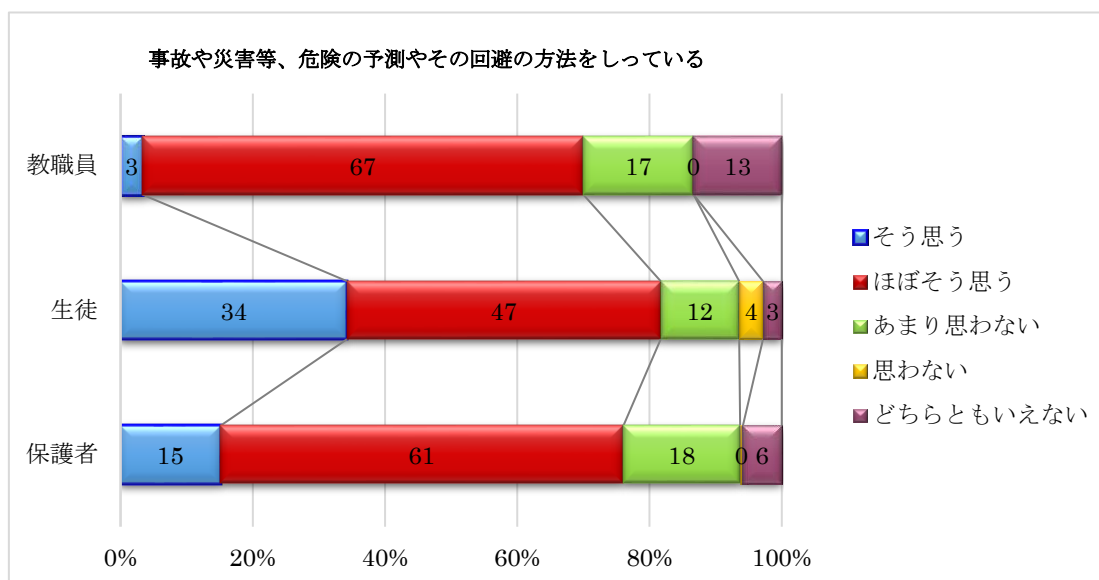


肯定的意見は、生徒が79%、保護者が82%、教職員が97%という結果となりました。学校としては、教育相談や教職員と生徒の日頃のあいさつや会話等コミュニケーションを大切にし、親身になって支えていく個に応じた生徒指導に取り組んでいきます。また、学習指導においては、全ての生徒が「わかる」「できる」を実感できるように指導

方法の工夫と改善を行いながら、学習活動の充実に努めてまいります。

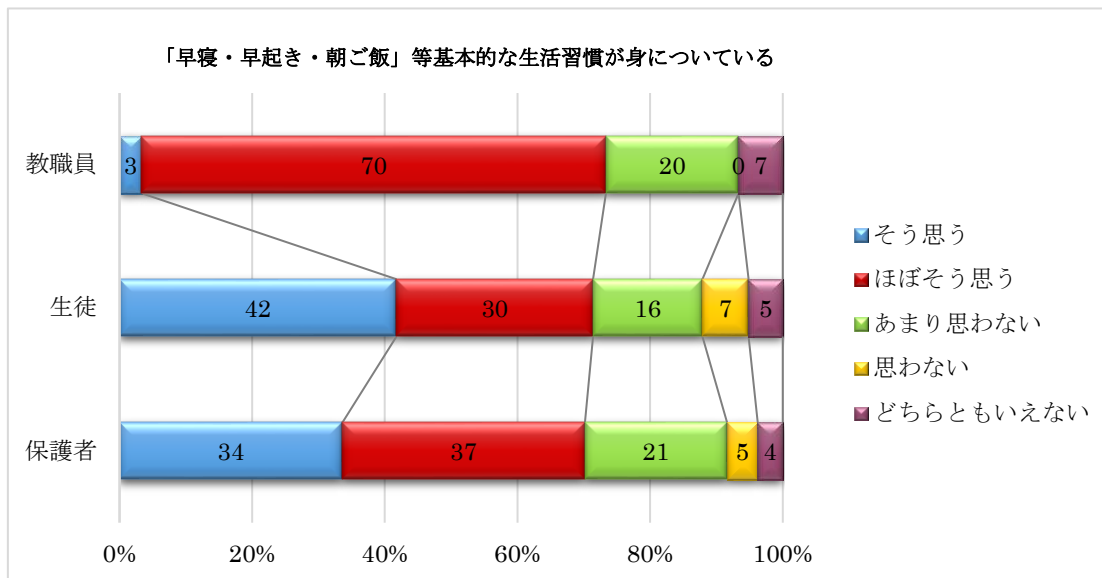


生徒、保護者、教職員の肯定的意見が、90%を超え高い割合を占めています。生徒は自分の命を守るために、ヘルメットや反射たすきを着用しています。今年度も衝突等の交通事故が数件発生しましたが、ヘルメットを着用していたため大きな怪我を防ぐこともできました。これからも交通ルール遵守やヘルメットや反射たすきの着用を呼びかけていきます。

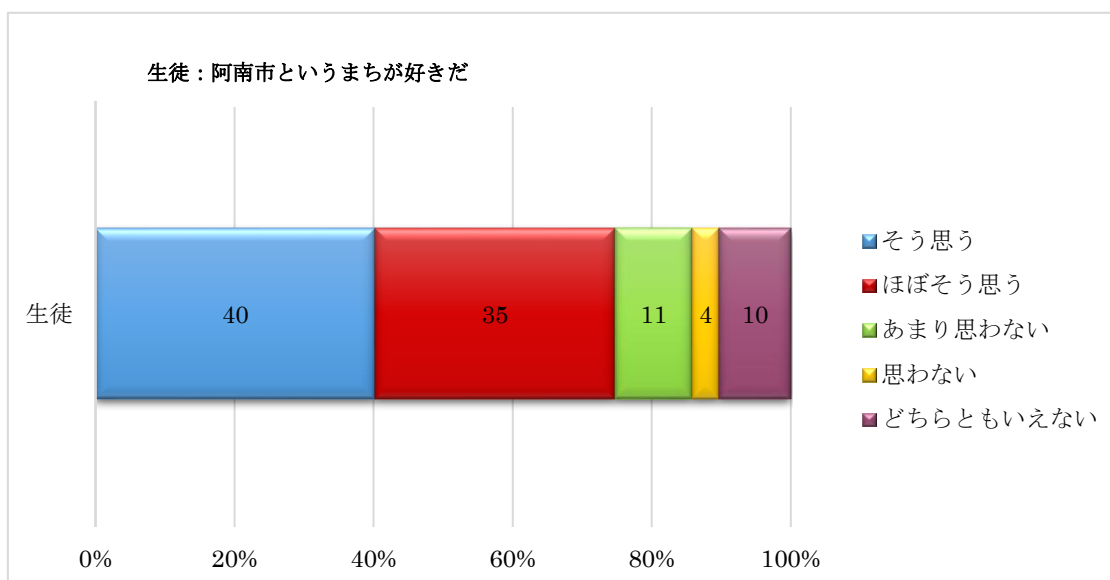


肯定的意見は、生徒が81%、保護者が76%、教職員が70%という結果となりました。東日本大震災から10年以上たちましたが、先日も能登半島地震があり、被害が出ています。今後も、防災学習や避難訓練等、様々な機会を通して防災・減災に関する意識を高めて

いきたいと思います。



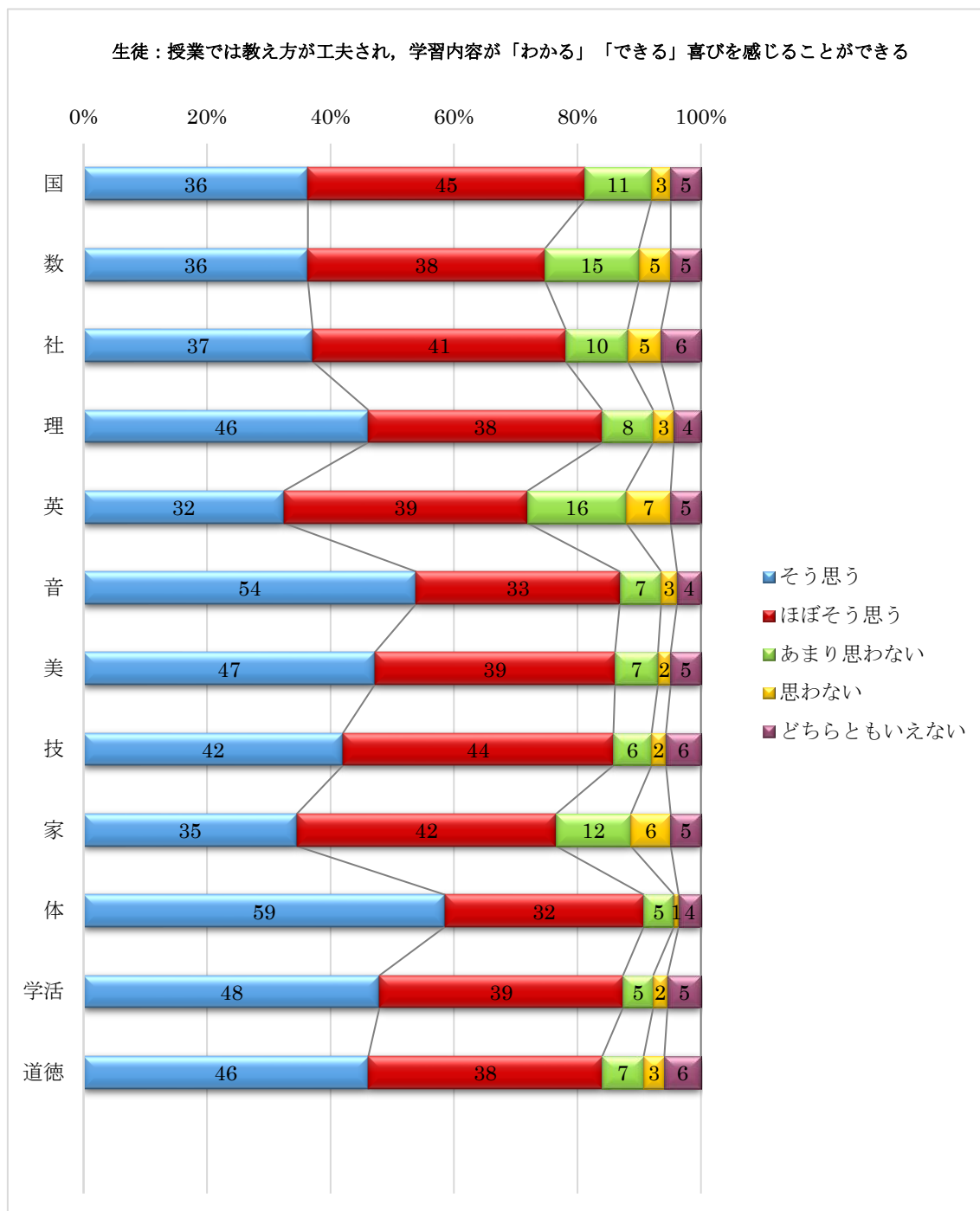
生徒、保護者、教職員のともに肯定的意見は約70%という結果となりました。生徒の約3割が基本的な生活習慣の確立がされていないという課題が見えてきました。基本的な生活習慣の確立は、学力や体力の向上につながります。朝食を毎日食べる習慣や健康な体づくりができるよう阿南市が取り組んでいる「食育パワーアップ作戦」を活用するなど、基本的な生活習慣の確立に取り組んでいきます。



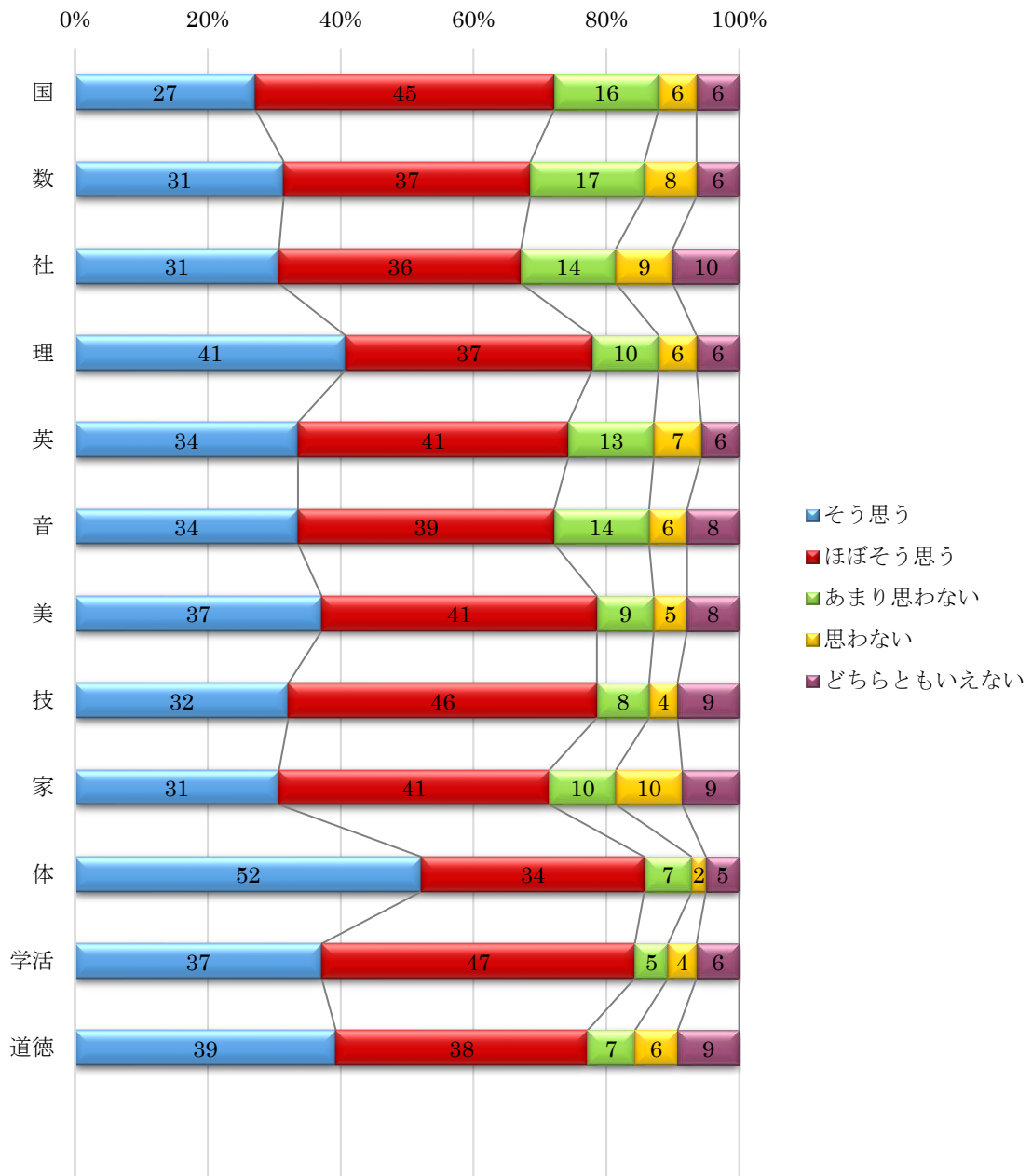
生徒の肯定的意見は75%という結果です。自分の生まれ育ったまちが好きであり、誇りを持つことができるように、地域と連携した体験的学習やボランティア活動への参加を進めて行きたいと思います。

今年度は、コロナ禍もあけ、地域のボランティア活動である「コスモスの種まき」への参加等、活動を進めてきました。

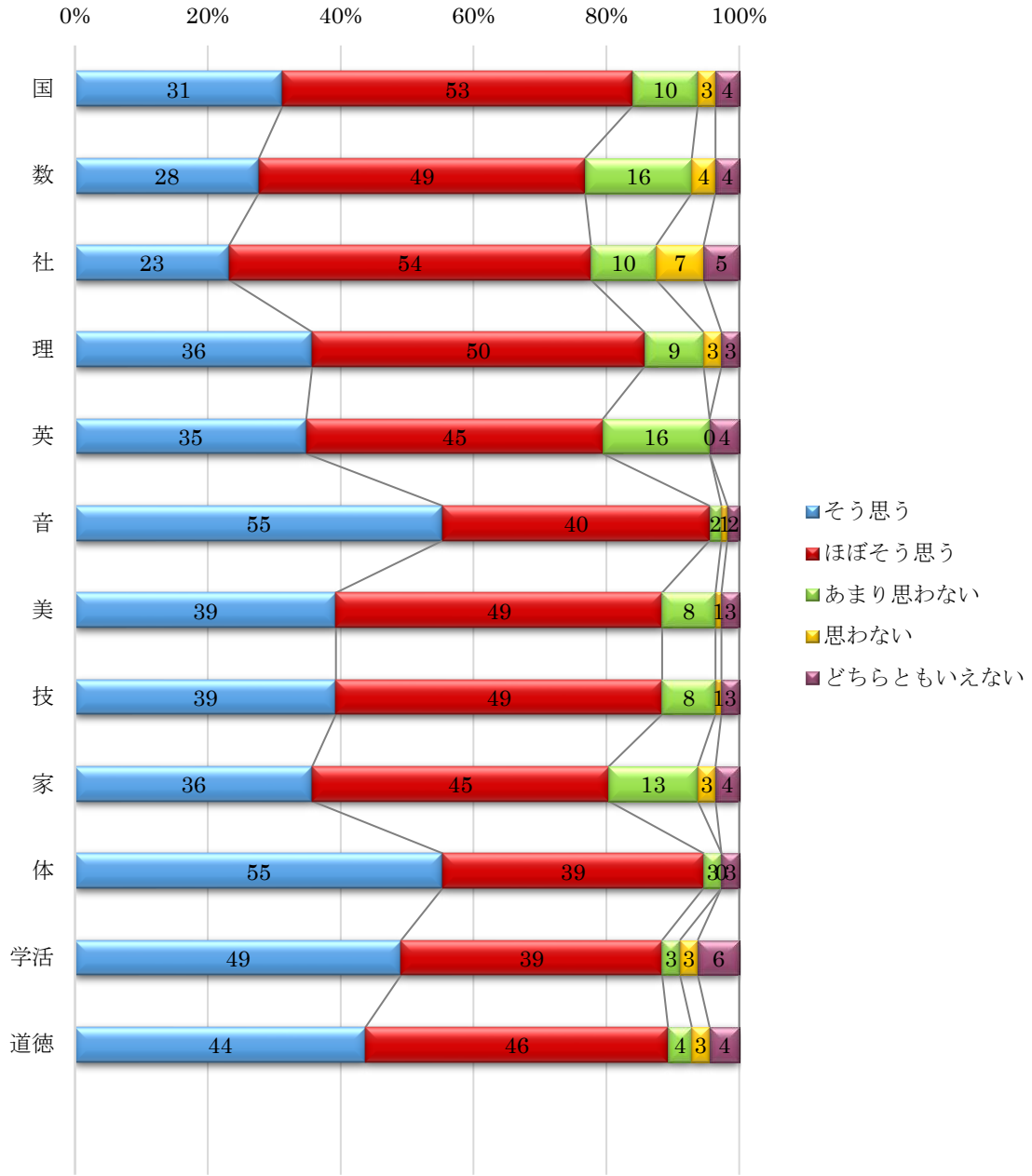
次年度は、学校運営協議会と連携し、地域の情報を収集し職場体験学習を実施するなど、地域とかかわる機会を増やしていこうと考えています。



生徒（1年）：授業では教え方が工夫され、学習内容が「わかる」「できる」喜びを感じることができる



生徒（2年）：授業では教え方が工夫され、学習内容が「わかる」「できる」喜びを感じることができる



生徒（3年）：授業では教え方が工夫され、学習内容が「わかる」「できる」喜びを感じることができる

